

科目名	幼児理解の理論と方法（幼児）		科目コード	2048	
開講学科	初等芸術教育学科	単位数	2	形態	講義
教員名	児玉陽子				
授業の目的及びテーマ					
<p>幼児を理解するためには、幼児の発達についての多面的な理解が不可欠である。その上で、子どもの視座を持つということ、子ども自らの育ちを支援するための理解の視点と技法を身につけることを目的とする。さらに、幼児のつまずき・保護者の心情に対する理解と対応についても学ぶ。また、保育者としての基本的態度、環境としての自らの存在についても理解し考察を深める。</p>					
授業概要					
<p>幼児理解のための発達についての基本的な知識について、講義と体験的学習で身につける。また、幼児を理解するための観察や記録などの具体的な方法を学び、事例を通して考える。さらに、幼児の育ちを支援するための絵本や遊び、また、幼児のつまずきや保護者への実際の対応などについて研究し、実践的な学びの機会とする。</p>					
授業計画					
<p>第 1 回：幼児理解とは何か・「幼児」の見えている世界 幼児を理解するための視座・幼児理解の意義について</p> <p>第 2 回：幼児の発達理解①理論の理解と保育者としての視点 乳児期から幼児期へ</p> <p>第 3 回：幼児の発達理解②理論の理解と保育者としての視点 幼児期前半</p> <p>第 4 回：幼児の発達理解③理論の理解と保育者としての視点 幼児期後半</p> <p>第 5 回：発達をつまずき 偏りと支援・個と集団</p> <p>第 6 回：幼児理解のための方法と技術① 幼児の発達や学びを促し、そこから幼児への理解を深めるための具体的な方法・技術について学ぶ</p> <p>第 7 回：幼児理解のための方法と技術② 幼児の発達や学びを促し、そこから幼児への理解を深めるための具体的な方法・技術についての実践的研究</p> <p>第 8 回：観察と記録 幼児を「みる」まなざしとは？記録の方法と意義・カンファレンスの在り方</p> <p>第 9 回：環境としての保育者① 保育者が「環境」として存在するとはどういうことか。幼児の理解者としての基本的な態度の理解。</p> <p>第 10 回：環境としての保育者② 子どもと保育者との相互作用。幼児の理解者としての基本的な態度の理解。</p> <p>第 11 回：幼児理解と支援の実際① 発達や学びを支援する・そのつまずきに気づき対応するなどさまざまな事例を検討し、理解と対応の在り方について考察する</p> <p>第 12 回：幼児理解と支援の実際② 子どもとの関係構築、保育者のあり方・対応可能性について検討する</p> <p>第 13 回：幼児理解と支援の実際③ 子どもへの対応と保護者との連携について考察する</p> <p>第 14 回：幼児理解についての総合的考察 幼児理解のための基礎的態とは何か・幼児理解のための方法について、場面・状況に応じた観察・記録を検討するとともに、個と集団についての理解と保育目標、教師の在り方について考察する</p> <p>第 15 回：まとめの課題と試験 幼児を理解する際に求められる知識と対応・援助の技術について学び・修得したことについて確認する ＋定期試験</p>					
テキスト	「幼児理解と保育援助」 森上史朗＋浜口順子 ミネルヴァ書房		参考文献	「幼児理解と保育援助」田代和代編著 建帛社	
評価方法：					
<p>通信授業は提出課題（2件）を以って評価する 受講態度（発言内容や取り組み）20% ＋ 試験 80%</p>					